

鶴見区区政会議 平成27年度まちづくり部会

1 日時

平成27年10月26日（月） 19時00分～20時56分

2 場所

鶴見区区役所4階 402会議室

3 出席者

（委員）

岡本部会長、大原副部会長、木村委員、佐々木委員、猿渡委員、柴田委員、
田中（潔）委員、西村委員

（区役所）

河村区長、萩副区長、野村総務課長、奥本魅力創造課長、小川広報戦略担当課長、
濱口地域活動支援課長、中嶋窓口サービス課長

4 議題

1. 平成28年度鶴見区運営方針の素案について
2. その他

5 議事

開会 19時00分

○奥本魅力創造課長 定刻になりましたので、ただいまから鶴見区区政会議まちづくり部会を開会いたします。

私、本日の司会を務めさせていただきます魅力創造課長の奥本でございます。よろしくお願いたします。

それでは、開会にあたりまして、河村区長からごあいさつを申し上げます。

○河村区長 皆さん、こんばんは。

遅い時間お疲れのところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

新しいメンバーになってから第1回目の部会ということで、今日はまちづくり部会で平成28年度の運営方針の素案について、皆様方のご意見等お伺いしてまいりたいと思います。

いろいろ課題は多岐にわたっておりますけれども、皆様方の貴重なご意見を承りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○奥本魅力創造課長 本日は新たなメンバーによる初めての部会でございますので、委員の皆様から簡単に自己紹介をお願いしたいと思ひます。

お手元に、委員名簿をお配りしておりますのでご参照ください。

それでは、大原委員から順によろしくお願ひいたします。

○大原委員 大原でございます。茨田南地域活動協議会から参りました。小学校のPTAを長くやっておりました関係で、前回からなんですけれどもこちらの区政会議に参加させていただいております。わからないことも多いと思ひます。また皆さんにいろいろ教えを請ひたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

○奥本魅力創造課長 それでは時計回りで。岡本委員、お願ひします。

○岡本委員 岡本です。今津の地域活動協議会から参りました。

前職と言うか、ずっと青少年指導員をやっているんで、それで引退をさせていただいたんですが、まだなかなか抜けきれずにということで。体を動かすのは大変好きなんですけど、こういう意見を申し上げるのは苦手なんで、どうぞよろしくお願ひいたします。

○木村委員 鶴見区の地域振興会の会長をしております木村でございます。

鶴見区の区政会議始まって以来、ずっとここまでやってきたんですけども、今回新しいメンバーでということでございますので、皆さんとまた新鮮な気持ちでやっていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○佐々木委員 佐々木でございます。鶴見北地域活動協議会から参りました。

前回はまちづくりに関する部会に入っておりますんで、今回引き続いて何ができるか、

どういふことを進めていったらいいのか考えもってやっていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○猿渡委員　このたび公募でこちらの部会を希望して入ってまいりました猿渡と申します。

NPO法人わらべというところで学童保育所の運営に携わっております。場所は鶴見小学校のすぐそばになります。住んでいるところは安田になりますので、勤め先も住んでいるところも鶴見区ということで、何かしら関係があるのではということで、のこのこ出てまいりました。よろしくお願ひいたします。

○柴田委員　失礼します。鶴見北連合の柴田でございます。

平生は、民生委員にかかわっておりますが、ちょっと今までと違った会議だなと思ひて、初めてでどうしようかなと思ひておりますが、いろいろ勉強したいと思ひます。よろしくお手やわらかに。

○田中（潔）委員　田中と申します。公募でこのたび選ばれました。

私は今、68歳で、年金生活で余生を送っております。ずっと鶴見に68年間おるもんですから、こういう公募がありましたので何か少しでもふるさとのお役に立てたら、そういう気持ちで応募いたしました。地域活動としては、鶴見北で町会の役員と、保護司をやっております。よろしくお願ひいたします。

○西村委員　西村と申します。

公募で参加させていただいております。来年の4月から榎本地域活動協議会で働かせていただく関係で参加させていただいております。今は近畿大学でまちづくりを勉強しているので、少しでもお力になればと思ひて参加させていただきました。よろしくお願ひします。

○奥本魅力創造課長　ありがとうございました。

それでは、続きまして区役所の出席者の紹介をさせていただきます。

○河村区長　河村です。よろしくお願ひします。

- 萩副区長 副区長の萩と申します。よろしくお願ひいたします。
- 野村総務課長 総務課長の野村でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。
- 中嶋窓口サービス課長 窓口サービス課長の中嶋と申します。よろしくお願ひします。
- 小川広報戦略担当課長 魅力創造課の広報戦略担当課長の小川と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。
- 奥本魅力創造課長 魅力創造課長の奥本でございます。よろしくお願ひいたします。
- 濱口地域活動支援課長 地域活動支援課長 濱口です。よろしくお願ひいたします。
- 筒井魅力創造課課長代理 魅力創造課課長代理の筒井と申します。よろしくお願ひします。
- 大川魅力創造課担当係長 魅力創造課担当係長の大川と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。
- 山本魅力創造課担当係長 魅力創造課担当係長の山本と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。
- 杉本魅力創造課担当係長 魅力創造課担当係長の杉本と申します。よろしくお願ひします。
- 大田魅力創造課担当係長 魅力創造課担当係長の大田と申します。よろしくお願ひします。
- 中村住民情報担当課長代理 窓口サービス課課長代理の中村と申します。よろしくお願ひします。
- 天谷保険年金担当課長代理 窓口サービス課保険年金担当課長代理 天谷と申します。よろしくお願ひします。
- 松井総務課長代理 総務課長代理 松井と言ひます。よろしくお願ひします。

○泉谷地域活動支援課担当係長 地域活動支援課担当係長 泉谷と申します。どうぞよろしくお願ひします。

○上原総務課担当係長 総務課担当係長の上原です。よろしくお願ひいたします。

○河本地域活動支援課 地域活動支援課担当係長の河本と申します。よろしくお願ひいたします。

○奥本魅力創造課長 それでは、次に部会長、副部会長の選出に入らせていただきます。

鶴見区区政会議運営要綱におきまして、部会長は区政会議委員の互選により選任すると規定されております。どなたに部会長をお願ひするかについて、ご意見はございませんか。

○木村委員 木村でございます。先ほども申し上げましたけれども、区政会議も随分年数がたっております。せっかくこのたび若い人を中心にたくさん参加してもらってますので、若い人中心にということで経験もございません岡本委員にお願ひしたいなと思ひます。

○奥本魅力創造課長 岡本委員というご意見がございましたが、いかがいたしまししょうか。ご意見ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○奥本魅力創造課長 よろしいでしょうか。

異議なしとのことでございますので、部会長は岡本委員にご就任いただくということで、よろしくお願ひいたします。

(拍手)

○奥本魅力創造課長 続きまして、副部会長は部会長が指名することとなっております。部会長、副部会長にはどなたをご指名されますでしょうか。

○岡本部会長 そうですね、お隣の大原委員はいかがかなと思ひますが、お歳も若いし、PTAも長いことやっておられるから。

○奥本魅力創造課長 部会長より、大原委員のご指名がございました。大原委員、
お願いできますでしょうか。

○大原委員 お断りするような雰囲気じゃないので。お願いします。

○奥本魅力創造課長 それでは、副部会長には大原委員にご就任いただくというこ
とでよろしく願いいたします。

○大原副部会長 お願いします。

○奥本魅力創造課長 では、部会長、前の席に移動をお願いいたします。

それでは、部会長、副部会長から一言ごあいさつをいただきたいと思います。

部会長からよろしくお願いします。

○岡本部会長 先ほども申し上げましたが、あまり人前でお話をしたりとか意見を
するって苦手なんですけれど、私なりに精いっぱい頑張りますので、どうぞ皆さんご
協力よろしく願いいたします。

(拍手)

○大原副部会長 大原でございます。全然何しゃべるか用意してなかったんですけ
ど、PTAやらせていただきまして、なかなかこういった鶴見区のことっていうのは
よくわかってないところが多いので、自分も勉強しながら、また皆さんと一緒に協力
し合いながら、いい鶴見区をつくっていけるように頑張りたいと思いますので、微力
ながらよろしく願いしたいと思います。ありがとうございます。

(拍手)

○奥本魅力創造課長 ありがとうございます。これからどうぞよろしく願いい
いたします。

それでは、これより議事進行を部会長にお願いしたいと思います。

部会長、よろしく願いいたします。

○岡本部会長 それでは新メンバーの初めての会となります。どうぞよろしく願
いいたします。

まず、早速ですが、議題1の平成28年度鶴見区運営方針の素案について、事務局のほうからよろしくをお願いします。

○奥本魅力創造課長 魅力創造課長の奥本でございます。

それでは説明いたします。

資料1「平成28年度鶴見区運営方針について」をご覧ください。

そもそも区運営方針とは何かということですが、区における取組みの方針として毎年策定しているものでございまして、区の目標や担う役割、重点的に取り組む経営課題と、その課題解決のための戦略や具体的取組、つまり平成28年度に鶴見区役所が何をしようとしているのかを示したものでございます。

まず、区の目標でございますが、区の魅力「つる魅力」という表現をさせていただいておりますけれども、区の魅力の創造や多様な交流により、新たなつながりが生まれ、区民の皆様がお互いに支え合い、だれもが住んでよかったと笑顔で言えるまちの実現を目標といたしております。

次の区の使命、すなわちどのような役割を担うのかでございますが、区民の皆様の信頼に応え暮らしを支えることなど、4つの項目を使命といたしております。

次に、2ページをご覧ください。

重点的に取り組む主な経営課題といたしまして、魅力あふれるまちづくりなど、6つの柱立てをしており、それぞれに戦略を設けております。

3ページ以降は、経営課題ごとの戦略と、その具体的取組を記載をしておりますが、部会が所管する経営課題1、魅力あふれるまちづくりに関しまして、初めに具体的取組を中心に説明をさせていただきます。

こちらのほうにパワーポイントを用意させていただいておりますので、こちらをご覧いただきたいと思っております。

また、皆様方には、そのパワーポイントの資料も配付をさせていただいております。

では経営課題の1、魅力あふれるまちづくりの具体的取組ですけれども、1-1-

1 魅力発信の取組みと 1-1-2 環境や花と緑をキーワードにした取組みの推進の2本柱となっております。

まず、魅力発信の取組みですが、にぎわいを創出し、地域の活性化を促進しながら区外にも鶴見区の魅力を広める取組みを行いたいと考えまして、魅力創造事業の各種イベントを実施していきたいと考えております。

魅力創造事業といたしまして、平成27年度に取り組んでいるものをご覧いただいている事業となっております。

5月に開催いたしました「つるみブランドフェスティバル」。鶴見緑地の花栈敷でやりました。そのほか「農事体験いも掘りプロジェクト」、5月から11月までやっておりますけれども、来月11月に芋掘りの体験をしていただく事業となっております。そのほか鶴見緑地のコスプレイヤーのためのマナー講習である「コスプレDAY」とか、9月に行われました区民まつりと同日開催で、国際庭園でやりました「つるみワールドフェスタ」、また一昨日24日の土曜日にしました、鶴見活性化楽園会議の皆さんによる「田んぼでどろんこ王国」、そして12月、「光の花栈敷」。平成27年度につきましては以上について取り組んでおります。

平成28年度の取組みですけれども、「いも掘りプロジェクト」や「コスプレDAY」、楽園会議イベント、これらは地域団体や鶴見緑地指定管理者、また地域ボランティアと連携をして実施しているものでございますので、引き続き実施していきたいと思っております。

「つるみブランドフェスティバル」や「つるみワールドフェスタ」、「光の花栈敷」につきましては、内容を検証・精査をいたしまして、再構築していきたいと考えております。

引き続き実施していきたいと考えている事業でございますが、まずは「農事体験いも掘りプロジェクト」です。鶴見緑地の体験学習施設、旧花き園芸実習場でございますけれども、こちらのほうで子どもたちに土に親しむ経験を通して、自然や食べ物の

大切さを実感してもらうとともに、地域コミュニティの醸成を図ることを目的に実施しております。

こちらが5月30日にスタートしたときの写真でございます。今年度は150組のご参加をいただいております。今年で3回目の実施となっております、こういった形でパークセンターの職員から苗植えの説明を受けているシーンでございます。

こちらがイモの苗ですけれども、このイモの苗につきましては大阪鶴見ロータリークラブさんからご寄附をいただいております。

150組のご家族と一緒に土の中にイモの苗を植えているところでございます。

こちらが子どもと保護者の方が一緒にされているシーンでございます。

次は「鶴見緑地コスプレDAY」です。こちらでございますけれども、昨年、平成26年5月から実施しております。コスプレイヤーのマナー違反について苦情が多くあったことから、公園利用マナーの向上、区の魅力アップの目的で実施をしております。昨年、505名の方が利用されておりますけれども、今年は9月現在で既に650名を超える方々が利用をされておられます。

こちらが、写真をコスプレイヤーの方たちが自身で撮られているシーンでございます。

こちらは、昨年、平成26年8月1日に関西テレビの取材を受けたところでございます。

また、鶴見緑地の政府苑跡をクロークとか更衣室として利用しております。

こちらがプロデューサーの宝塚大学の神澤先生でございます。神澤先生から参加者に対してマナーアップ講習を行っているシーンでございます。

こちらが去年の6月に朝日新聞の夕刊に載った写真でございます。

「鶴見活性化楽園会議イベント」でございますけれども、楽園会議とは鶴見区の魅力アップや活性化につながるイベントの企画から運営実施まで行う、区民のボランティアの集まりでございます。現在は学童保育指導員の方や農業経営者、ミュージシャ

ン、ステンドグラスアーティストなどなど、個性豊かなメンバーの方たちによって構成をされており、協力企業への依頼など積極的に活動されておられます。

こちらが一昨日、24日の土曜日に行ったイベントでございます。田んぼが少なくなってきました大阪市内においては、大変ユニークな取組みでございまして、鶴見区としても初のイベントでございます。田んぼで綱引きや、野菜を宝に見立てて宝探しなどの遊びを行う中で、自然を体感しながら親子が触れ合い、また日常生活では体験できない遊びを通して、鶴見区の新たな魅力を感じてもらえる機会の創出を目的に実施いたしました。

こちらは、5月にやりましたプレイベントの写真になっております。こういった形で子どもさんが保護者の方と一緒にいるシーンでございます。田んぼのどろどろの中を走り回っているシーン、いろいろと遊びをやっているところです。田んぼの中の生き物なんかもここで観察をしているところでございます。

こちらが楽園会議のメンバーの写真になっています。真ん中に猿渡委員も一緒に写っておられます。

こちらが今年の日日新聞新春特別号、1月1日号に記事として取り上げられたところでございます。

前回、去年は「古着にペイント」というイベント行った際にも、こういった形でマスコミに取り上げられておりました。

次ですけれども、区民の皆様が世代を問わず鶴見区の歴史やまちの魅力を感じ、愛着を深められる取組みの1つとして、「写真撮影体験イベント」を実施していきたいと考えております。

こちらはイメージ写真ですけれども、鶴見緑地の魅力を再発見する機会を創出することを目的に、写真家等の指導のもと、講習会や撮影会、コンテスト等を予定しております。

次が「トワイライトコンサート」です。区役所のホスピタリティ、おもてなしを高

め、区民の皆様に音楽を身近に感じてもらえる場所と演奏の機会を創出することで、音楽人材の輪を広げるとともにつながりを強め、新たなコミュニティの創出を図り、鶴見区の魅力向上を目的として実施しております。

この10月、これが第1回目として初めて開催したときのチラシになっております。童謡とか唱歌、スタンダードな曲をキーボードとパーカッションで演奏、歌っていただきました。平成28年度、来年度も毎月1回のペースで実施していきたいと考えております。区役所の1階ロビーのところをこういった形でイスを25脚置かせていただきましたけれども満席でした。

次に、「発見！！つる魅力」冊子です。新しく鶴見区民になられた方々や、また古くから鶴見区にお住まいの方々に、世代を問わず区への愛着を持って住み続けたいと感じてもらえるよう、さまざまな角度から鶴見区の歴史や名所、旧跡、魅力スポットなどについて、写真や絵を多用し、子どもからお年寄りまでわかりやすく、冊子を通じて家族間で会話が生まれるような冊子にしたいと考えてまして、現在制作中でございます。今年度は4万8,000部、全戸配布いたしますが、平成28年度におきましては、主に転入者の方を中心に渡すため、増刷していきたくて考えております。

こちらは冊子制作にあたりまして、魅力や歴史を再発見する取組みといたしまして、フィールドワーク、まち歩きを来月実施する予定でございます。

次ですけれども、さまざまな広報媒体、区広報紙とかホームページなどを活用いたしまして、区の魅力PRに取り組んでいきたいと考えております。

こちらは鶴見区役所のホームページ、トップページの中央のあたりを丸で囲んでおりますけれども、こちらは花博記念公園鶴見緑地ということで、指定管理者のホームページにリンクをしております。

鶴見緑地の指定管理者のホームページには、こういった形でトップページがありまして、イベント情報やマップもここで一覧できるようにしております。

次が、環境や花と緑をキーワードにした取組みの推進ということで、先ほどの具体

的取組の２本目の柱でございます。花と緑のまちづくりへの活動参加者のすそ野を広げていくとともに、環境に関する活発な区民活動を支援していきたいと考えております。

こちらは「環境フェスタ」でございます。さまざまな角度から環境に対する意識を高める取組みの１つで、環境問題に対して関心の薄い区民の方でもわかりやすく親しみの持てるような内容で実施をしております。

今年度は「南極クラス」を開催予定でございます。子育て世帯をターゲットにした啓発イベントといたしまして、体験談を交えた講義をはじめ参加者体験型学習などを取り入れ、自然環境への関心を深めたり、子どもたちに夢と希望を与えたり、また仲間やチームワークの大切さに気づいてもらえればと考えております。平成２８年度におきましても、さまざまな角度から環境問題をとらえる内容で引き続き開催をしたいと思いますと考えております。

次が「環境学習会」です。環境に優しいライフスタイルを心がけるきっかけとなる機会を提供することを目的に、環境局との共催によりまして身近なテーマ、自然環境とか生活環境といったテーマで実施する環境学習講座を活用して、３講座開催してまいります。

今年度ですけれども、第１回で柿しぶ染めでつくってみようということで、新聞紙でトートバッグみたいな形をつくりまして、そこに柿しぶを塗っております。こういった形にしますと、柿しぶが乾きまして、紙ですけれども非常に固いものになるということなどを皆さんで体験をしていただきました。

また、これは２回目ですけれども、Ｔシャツから布草履をつくろうということで、要らなくなった古いＴシャツを輪切りにいたしまして、それからこういった形で草履をつくっていく。再生品をつくっていくということを、皆さんに体験していただきました。

こちらは、自分たちの手で種から花を育て、その花を町中の公園や道路、学校、幼

稚園、保育所、区役所などに植えることで、うるおいのあるまちづくりを進めているボランティア活動の種花活動でございます。

春まき、秋まきの年2回、種まきから育苗、苗を育てていただきまして、その後各地域や公共施設に出荷するという活動をしていただいております。

こちらがその活動のシーンでございます。

メンバーの皆さんの写真です。

つくっていただきました花などを、こちらは鶴見緑地の駅前の花壇ですけれども、この駅前の花壇などに植え込みもしていただいております。

こういった形で、非常にきれいになった写真でございます。

また、こういった形で地域の公園で子どもたちが花植えを実施している写真でございます。

種花活動の参加者募集もかねまして、花の寄せ植え講習会を毎年実施しております。

こちらは、新規ボランティア講習会。こちらも年2回させていただきます、種花活動の参加者の募集をかねてやっていただいております。

こういった活動PRのための冊子も制作をしております。

こちらですけれども、種花活動の参加者の固定化が進みまして、活動の規模が拡大していないため、作業の負担軽減、多くの担い手の育成を図るため、花づくり活動の拠点を、現在今津でやっておりますけれども、緑地内にあります苗圃のところに拠点を1つ増やしまして、各地域が活動に参加しやすい整備を図ってまいりたいと考えております。現在こういった苗圃を、花づくり広場として整備をしてまいりたいと考えております。

そのほか、運営方針では記載をしておりますけれども、クリーングリーン鶴見緑地の活動もしております。区民の皆様が鶴見緑地をより美しく、みんなにもっと愛される公園にしていくという趣旨のもと、年2回市民協働イベントとして、緑地内の雑草抜きやごみ拾い活動を実施していただいております。今年も5月にこういった形で

させていただきます。

こちらが緑のせせらぎのアーモンドの木の周辺でございます。皆様方に参加していただきました。

こういった作業後、非常にきれいになった写真でございます。

そのほか、地域コミュニティの醸成を目的といたしまして、小・中学校や地域と連携をして蛍の育成、繁殖、鑑賞を実施しております「鶴見にほたるを飛ばそう会」への活動支援も行っております。小学校での「ホタルの夕べ」のシーンでございます。こういった形でパネル等で蛍の生態を講義していただいているところでございます。

蛍の幼虫の放流ですけれども、鶴見緑地の公園来場者の方々に蛍が飛び交う様子を楽しんでいただくことを目的といたしまして、蛍の幼虫を放流しております。こちらは鶴見幼稚園ですけれども、緑のせせらぎのところで放流をしているシーンでございます。

こういった事業に関しましても、引き続き平成28年度に取り組んでまいりたいと考えております。

広報につきましては、区内61基の広報板を活用したり、今年の5月から広報紙の中でも子ども対象の事業などに特化いたしまして、「つるみっ子だより」という形で、各小学校に配布させていただいております。

また、駅構内や、イオンモールの区の情報コーナーでもこういったチラシを配架させていただきます。

次に、今、皆様方にお配りをしております横長の資料2、平成27年度のこれまでの部会や全体会における意見につきまして2つほど紹介をさせていただきます。

1つ目が、イベントの実施についてという項目で、主な意見といたしまして、楽園会議などイベントのPRにもっと努めるべきである。またイベントは開催し、楽しかったで終わってしまうのはどうかというご意見をいただきました。

区役所の回答といたしましては、楽園会議の活動につきましては、どのような支援

ができるか検討してまいりたい。またイベントにつきましては、一過性で終わらせるのではなく、効果が持続できるようなイベントを次年度にどうつなげていくかの検証や改善を考えて実施していきたいと考えております。

1枚めくっていただきまして、裏面でございます。

ボランティアについてでございますけれども、主な意見といたしまして、親子連れが参加しやすい活動内容の工夫とボランティアを増やすための取組みを行う必要があるというご意見をいただきました。

区役所の回答といたしましては、親子連れが参加しやすい活動内容を検討するとともに、既に活動実績があるボランティアの存在についても効果的にPRしながら、ボランティア活動参加者が増えるような魅力的な取組みを引き続き行っていきたいと考えております。

主なご意見を2つほど紹介させていただきましたけれども、こちらが平成27年度にこの区政会議でいただいた意見、そして区役所の考え方でございます。

説明は、以上でございます。

○岡本部長 ありがとうございます。とてもたくさん内容があって、初めのころに言っていただいたことなんか忘れそうな感じなんですけど、何か皆さんご意見とかご質問があれば、奥本課長のほうに。ございませんか。指名しましょうか。

どうぞ、田中委員。

○田中（潔）委員 今、説明していただきまして、こんなに多くの事業と言うんですか、イベントをやっておられる区役所の皆さん、大変だとそういう認識させていただきました。本当によくやっていただいていると思います。

広報のほうも、きっちりやられているように思います。やっぱり広報活動が参加者数を増やすとか、そういうことで大事だと思います。広報はこれからきっちりやるということ。

それと、もう1つ私今感じましたのは、鶴見緑地というものすごくいい環境がござ

います。それで鶴見緑地にはいろいろな施設もございまして、それもうまく活用されて、上手にこういうイベントができています。それもありがたいことだと思います。

私も鶴見緑地によく行くんですけども、あちこちから、大阪府内全域ですか、それからその他のところの人もいっぱい来られます。これは区役所の仕事じゃないかわからないですけど、便所とか、それから時計がとまっているとか、そういうことだけはないようにね。便所も一応清潔にして、壊れた便器はすぐ取りかえるとか修理するとか、そういうことは心がけていただきたいなど。やはりインフラだけはきちりやってあげたら、次いい印象を持って来てもらえますんで、ぜひその辺。区役所がどこまでタッチできるのか、別のそういう役所さんがあると思うんですけど、そこ連携取りながら、来られた方には気持ちよく使っていただいて気持ちよく帰っていただくと。そういうふうにやっていただけたらと思います。

以上です。

○岡本部長 ありがとうございます。

ほか、ございませんか。

どうぞ、大原副部長。

○大原副部長 ちょっとポイント的なことになるんですが、先ほど田中委員からお話しいただいたように、いろんなイベントはたくさんやっていただいている。もう2年前からいろいろやっていただいたと思うんですけど、かなり多くのことをやっていただいている、本当にいい鶴見区の魅力を引き出すために緑地を活用しているという印象があるんです。

その中の子ども中心のイベントについてなんですけれど、芋掘りですが、2年前の第1回目のときは、確か50組か60組ぐらい対象にされていましたね。今150組にこれなったんですけども、これはだんだん枠を増やしていただいているというのは、例えば泥んこ遊びも蛭もそうなんですけれども、申し込んだ方に対して極力全部受けるような形にしているのか、やっぱりちょっとある程度枠をくくってされているのか、

その辺を教えていただきたいなと思ひまして。

というのは、鶴見区はやっぱり子どもたちが中心のイベントということなんですけど、子どもたちは今後の鶴見区を支えていく人間ですし、鶴見区に愛着を持つという意味で、参加いただけることがやっぱり愛着ということにつながっていくと思うので、そういったところの取組みに対してどうされてるかというのを教えていただきたい。お金もかかることだとは思ひんですけど、多少。

○奥本魅力創造課長 そうですね。ありがとうございます。イベント、芋掘りもそうなんですけれども、先ほどの「どろんこ王国」につきましても、午前50組、午後50組という形で募集をいたしましたら、258組の方から応募いただきました。50組で、1組大体、保護者の方と小さいお子さん2、3名いらっしゃるので、大体3人ぐらいとしますと、50組で大体150人ぐらいになるんですね。安全性も含めまして、大体50組ぐらいが妥当ではないかということで、制限と言うか定員を設けさせていただいたんです。非常に人気がありまして、この「どろんこ王国」もお子さんも保護者の方も非常に喜んで満足度が高いイベントでありました。今後この楽園会議さんのイベント、企画運営から実施までやっていただいているんですけども、機会をどのような形で増やしていけるのか、子どもたちがどこまで参加できるのかということも踏まえまして、一緒になって検討をしていきたいと思ひます。

また、芋掘りにつきましても、広報を出しましたらすぐに電話がかかってくるまで、非常に人気が高いイベントになっておりました。今回こういった形で150組と定員を設けさせていただきましたけれども、これは鶴見緑地の指定管理者であります鶴見緑地スマイル5とも一緒に協議をして、どのぐらいまで広げられるのかということにつきましても、検討していきたいと思ひています。

○大原副部長 僕、どろんこ見たときに自分が行きたかったぐらいで、土曜日行かれへんみたいな感じになったぐらいなんです。

○奥本魅力創造課長 私もああいうような泥んこに入ったのは初めてなんですけれ

ども、ぬるっとした感触と冷たい感触で非常に楽しかったです。

○大原副部長　自分らが住んでいる鶴見区の公園の中でそういったことができるってというのは、なかなか得られないすごくいい思い出になると思うんで、こういったイベントは人数を拡大できるならしていただければありがたいなと思います。また来年度以降よろしくお願ひしたいと思います。

○奥本魅力創造課長　前向きに検討させていただきたいと思います。

○岡本部長　これ応募されているのは、鶴見区の方が多いんですか。

○奥本魅力創造課長　鶴見区の方が多いですけども、鶴見区外の方も応募されておられます。

鶴見区の魅力を発信するということで、鶴見区外も、鶴見区ではこういうおもしろい魅力的なイベントをしてますということでPRをしておりますので、そういった形でご参加もしていただいているのが実情でございます。

○岡本部長　学校、小学校とかとも連携してというのはないんですか。イベント的に。例えば小学校の1年生全員をイベントに招待してあげるとかしていったほうが。

○奥本魅力創造課長　そうですね、おもしろいですね。確かに今まで、区内に小学校12校ありますけれども、その子どもたちを招待するということではあまりしてこなかったんですけども、やはり12小学校の子たちが、一堂に会してやっていくのもおもしろいかなとは思ひます。

そういった形で、1回ちょっと学校の先生方ともお話を進めさせていただいてもいいのかなと思ひます。

○岡本部長　遠足ね、遠いところにも行ってはるけどね。意外と鶴見緑地にはこの集団で行ってるのは少ないかしらんしね。

○奥本魅力創造課長　はい。おもしろいかなと思ひます。

○柴田委員　それはどこかへ委託されてるんですか。イベントの企画とかは。区役所の中で計画ですか。

○奥本魅力創造課長　例えば「どろんこ王国」というのは、鶴見活性化楽園会議のボランティアさんが鶴見区の魅力を高めていこうということで。

○柴田委員　知っているメンバーおられるのであれですけど。

○奥本魅力創造課長　メンバーは随時募集をしています。

○柴田委員　募集で。そうですか。

○奥本魅力創造課長　はい。この前も1名の男性の方が、広報紙を見てイベントサポーターをしたいということでご参加いただきました。その方は、この楽園会議に今度から入っていただくということで。

○柴田委員　そういう集まりで企画してはるんですね。

○奥本魅力創造課長　そうですね、はい。どんどん集まってきていただければいいなと思っております。

○柴田委員　なかなか今までのいろいろな行事とか、そういうものとダブってきてるので、その辺を切り離すのが私自身がちょっと大変なんですけども、これはもう新たにスタートしているということですね。区政会議でスタートしたということなんです、この中身は。この行事はすべてこの区政会議でスタートしたものばかりということですね。

○奥本魅力創造課長　区政会議で取組みが始まっているというものもありますし、それ以外のものもあります。区役所でやってきているもの。ただ、区役所がやってきているものを、先ほども申しあげました漫然とやっていくわけではなくて、やはり中身につきましても検証をしたり改善をしていって、少しずつ少しずつ形を変えていって実施をさせていただいています。

○柴田委員　わかりました。

○岡本部長　直近で猿渡委員、一昨日携わってはったんですよ。

○猿渡委員　初回からやらせていただいております。

○岡本部長　何かご意見とか。

○猿渡委員　よろしいでしょうか、もう大原副部長がお話になってるときにうずうずしながらお話を伺っておりました。

やりながらわかってくることってというのがございます。初回は何人集まるか、実施側と言いますか、楽園会議サイドは恐らく把握ができなくて、もう言葉悪いですけど、びびりながら水の館をお借りして、あのホールでやらせていただいて、がらっがらやったらどうしようって言いながら進めました。おかげさまで大雨が降りまして、だめかなと思ったら100人ほどお子さんたちが来られたんですね。それでちょっとこう、ほっとして、2回目もまた水の館で古着のTシャツのイベントをやらせていただいて、おかげさまで大雨が降りまして、もう無理かと、もう人来ないなと思っていたら、200人ほど親子さん参加されまして。昨日が300人超で。着実に数は増やしていておりますが、キャパシティの問題は、イコール安全管理の問題であろうと。鶴見区主導でイベントを打つにあたって、安全管理を外すわけにはまいりません。やはり。安全管理の考えで、今の楽園会議の実力は恐らく100組までという非常にシビアな判断をしたもので、今回258組の応募があったと聞いて非常に胸が痛い。158組の方は落選されている。担当の方にもお話を伺いました抽せんの様様であるとかって僕らは伺い知れんところがあります。はがき1枚1枚に絵が描いてあったりとか、1軒で何枚も出された方があったりとかっていう、主体的な情熱と言いますか、子どもは出してこんのです。やっぱりこういうのは親御さんが主導で進むんですけども、非常にありがたいし、同時に申しわけない。すべて258組を拾い上げることができないのは非常に残念と。そのために何ができるのか。決してネガティブにやるんじゃなくて、今の実力をちゃんと見きわめて、今後のイベントでは258組全員を参加できるような力を楽園会議自体がつけたいと思っているんですね。

もう1つは、ここはまちづくり部会ではありますけども、やはりまちの子どもたちの人数が非常に多いという特性のある鶴見区だと思っています。大阪市内でも恐らくナンバーワンだろうというふうに思うわけですけど、学校ができるなんていう話を

聞く区はほぼないわけですよ、よそで。それが非常に子どもが多いという中で、イベントをやらせていただいて、もう特に土曜日のイベントで思ったことは、我が子に関心を持っていただくのは当然ですが、僕、我が子がまだ11カ月でイベントには参加できないわけですね。

でも、そうやって言うたら他人がうちの子のためにこういうふうなことを考えてくれる、関心を持ってくれているというのがわかれば、そこの熱にふれば、恐らく参加した親御さんたちに少しもっと我が子に熱を注いでいこうかなというようないい循環と言うか、いいスパイラルが生まれてくるんじゃないかなってというのは、イベントをやってほっとしたときに一番最初に思ったことでした。

なので、伸びしろの部分が正直まだ3回ぐらいじゃ見えてないのが実情かなとは思いますが、まちづくりを進めるにあたって、僕はこども教育部会のほうにも実は手を挙げさせていただいて、両方の部会に参加させていただくので、どちらでも同じ話をしようと思ってるんですが、鶴見区のキーワードの大きいところに子どもが入ってるんじゃないかと、それを信じて活動してますので、またいっぱいいろんな意見を入れていただいたり、人材を投与していただいたりとか、組織を投与していただいたりすることで、恐らくそういう応募されてくる方、みんなが満足できるようなイベントにつなげていけるのではないかなと考えております。

○岡本部会長 ありがとうございます。

○奥本魅力創造課長 先ほど田中委員がおっしゃられた緑地のトイレですけれども、中央の第一駐車場、大きい駐車場の中のトイレにつきましては、平成28年度、来年度建てかえをします。トイレに関しては、やっぱりお金がちょっとかかりますので、しばらく時間かかると思うんですけれども、これまでどおり早期補修なんかにつきましては、機能維持ですね、そういうのを最優先に取り組んでいくものと考えています。

○萩副区長 区役所がやるのと違う。

○奥本魅力創造課長 はい。公園を管轄する建設局が維持管理しているんですけれ

ども、区役所としてもそういったことをきちんと伝えていきたいと思っております。

あと、トイレトーパーも今、緑地内で7カ所のトイレに設置をしています。少しずつですけども使い勝手がいいような形で今、取組みが進んでいるところでございます。

時計につきましても、止まっている時計というのは非常に役に立たないと思いますので、そういうお声があれば区役所に言っていただきましたら、またそのお声を公園管理者のほうに伝えてまいりたいと思っております。

○萩副区長 トイレの問題につきましては、昨年の区政会議でもかなり話題になりまして、やはり博覧会を開いた当時、トイレの数、すごい数でしてね、なかなかこう補修するにも予算的にもしんどい中、建設局がかなり現場を見て、今度、中央公園の中央駐車場の工事をやることになったんです。

○田中（潔）委員 やっぱり入りましてね、トイレに。バツとかガムテープで貼ってあるとかね、感じ悪いんですね。そらものすごく水回りはお金がかかりますしね、副区長も今、言われるように公園になるわけですからね、そら限界があると思いますけど、気持ちよく来ていただいて気持ちよく帰っていただくという基本を忘れないようにしていただきたいと思うんですけど。

○奥本魅力創造課長 ありがとうございます。

○大原副部長 先ほど柴田委員のほうからお話のあった区政会議の意見がどういうふうに反映されるんですかというお話もあると思うんですけど、トイレの話というのは、2年前の区政会議のときに、先ほどお話しいただいたとおり委員のメンバーが鶴見緑地を練り歩いて、ちょっと緑地に何か課題がないかっていう中でトイレの課題が出てきたんですね。そういった中で、その声が一応届いて、こういった形で反映いただけてるってということもありますんで、何か意見を出していただければ取り上げていただけることもありますし、いろんな面、お金の面であったり、人の問題とかで難しい話も出てくるとは思いますが、そういったふうにお話しいただければいいんじゃない

ないかなと思います。

○岡本部長 よろしいですか。

議題多いんで、次行きましょうか。

○濱口地域活動支援課長 お手元の資料の5ページの経営課題2、地域コミュニティの活性化についてをご覧ください。

私ども地域活動支援課では、自立的な地域運営でありますとか、地域活動の活性化に向けた支援を担当させていただいています。

地活協とか中間支援組織とか、区役所の事務分担や役割について見ていただきながらと思っています。

経営課題2の地域コミュニティの活性化について説明させていただきます。

ちょっと見にくいんですけども、ちょうど左側に区役所と中間支援組織というのが見えるかと思います。この区役所から、中間支援組織というところに対して委託してるんですけども、一方でこの右側に地域活動協議会という固まりが、ちょっと見えにくいんですけどもありまして、その傘下に、例えば地域の方でありますとかPTA、また商店会、青指さんとか青福さんとか、そういったもののグループの集まりとして、地域活動協議会というのが結成されてます。これはおおむね小学校区を1つの単位として、自立的な地域運営の仕組みということで組織されています。自立的な地域運営って何やというのはあるんですけども、一言で言えば、民主的に開かれた組織運営ということで、小学校区を1つの単位として、いろいろな各種団体が集まって民主的に開かれた組織としてあるのが右側の地域活動協議会とご理解ください。

それと、ちょうど左側の区役所のちょっと下に中間支援組織というのがあります。区役所のほうから公募によって委託しているのが中間支援組織というものでして、中間支援組織は何のためにあるかなんですけども、要は区役所、我々のほうと連携して、右側にある地活協のそういう仕組みについて、取り組む内容について、民間のノウハウを生かしながら、区役所と一緒に連携しながら支援を行っていくというふうに

なっています。

基本こういうイメージで、中間支援組織と区役所が右側の地域活動協議会に対して自立運営に向けた青色の支援を行っていくと。区役所と地域活動協議会が協働によるまちづくりを旨としていくというのがちょうど表題にあります市民による自立的な地域運営の実現に向かっていくという考え方でございます。

そうしましたら、改めてお手元の資料の5ページに戻っていただいて、目ざすべき目標という状態というのが、「幅広い人たちが参加しやすい魅力ある地域活動が行われ、人材、物、資金、地域情報の地域資源が活用され、循環する地域コミュニティを目ざす」というのがおおむね3年から5年間を念頭に置いた中期目標。この中期目標のための戦略として、その下に、自立的な地域運営とか地域活動の活性化に向けた支援を行っていく。

地域活動への関心が低い人たちに、地域活動に参加しやすいような環境づくりに向けた支援を行っていきましょと。

また、そういう地域資源が活用され、循環するような地域社会の活性化を図っていきましょというものが戦略でございます。

次、また6ページをご覧くださいまして、そのためにこの具体的取組のところ考えておりますのが、まず1つ、各地域、今、先ほどの右側にあった地域活動協議会のほうに、区役所の中の担当職員を複数名配置しております。そもそも地活協が目ざすべき自立した地域運営に向けた支援というのを、中間支援組織と連携して区役所が行っていくという取組みでありますとか、あとそういう地域活動のさまざまな情報、いい情報なんかが我々のほうに入ってきますので、それをさらに皆さんに活用していただくという趣旨で、改めてまた別の例えば地域活動協議会に対して情報提供をしたり、区の広報紙等々を使いましてPRしていきましょということでの情報共有を図っております。

さらに、この地域社会の活性化を図って自主財源の確保に向けた支援を行っていく

ということで、例えばこの地域活動フォーラムの「つるばた会議」というのを開いて
いまして、7月にも開いたんです。また今後、地域活動の本をつくっていくというこ
とで、皆さんと一緒に地域活動の本を一緒につくるべく、「つるばた会議」を、お手
持ちのチラシも中に入ってますが、そういう取組みなんかも考えております。

さらに、次、広報事務勉強会です。先ほど申し上げた1つの地域だけよくやった分
についてそのままにしておくのではなく、それをほかの地域にまで情報共有をしてい
きましょうと。情報共有するための1つの手段として、電子媒体であるホームページ
でありますとか、あとWEB2.0のSNS、フェイスブック等々を使いながら、情
報共有をしていましょうという取組みも中間支援組織と一緒に地域の方に対して取
組んでいくということで、今回、今年度は特に茨田西さんのホームページも立ち上が
りました。広報紙については茨田北さんのほうが非常にわかりやすいと言いますか、
読者を引きつけるのに十分なぐらいの茨田北の茨田北通信と言いますか、広報紙をつ
くっているというような実績が挙げられております。

さらに、実際に鶴見区に住んでいてもなかなか鶴見区というのがわかってないとい
う部分で、まち歩きをすることによって、さらに地域のヒントになるものがあるでし
ょうという観点で、この5月とか7月、10月、12月にそれぞれ地域の小ネタ探し
プロジェクトという部分での「まちあるき」というものを実施しております。

さらに、この領収書の取り扱いの会計勉強会を開いております。

とりわけ領収書についてなんですけれども、役所の補助金が入っていますので、補
助金イコール税金の考え方で言うと、会計処理の適正化というものが求められます。
当然、交付金の流れなり用途の透明性の確保という観点で、いろいろな制約がござい
ます。例えばあて名は地域活動協議会になっていますかという部分でありますとか、
ただし書きのところですね、実際に入っていますかということでありまして、領収
書の振り出しと言いますか、これ領収印が入っていますかとかいうところなんかを、
会計の透明性の部分で。とりわけ地域から一番要望が多いのは、ただし書き、何を買

ったかというのは、書くのがなかなかちょっとしんどいという部分もございますから、領収書でなくても何を買ったかというのがわかればレシートでもオーケーというような事務の簡便性の部分にも配慮して、考えていっているということもあります。なかなか会計の透明性と事務の簡便性というのは両立が難しいんですけども、透明性を、当然税金が入ってるので図りながら、できるだけ事務というものも留意しながら考えていくというような取組みを、徐々に我々のほうとしても考えてやっております。

こういったいろんな中間支援組織と連携しながらやっていく取組みについても、随時アンケートを取ることに よりまして、ご意見をいただいて検証、先ほどの奥本課長の魅力の話ではないですけども、効果検証を行いながら改善サイクルを回していくというふうなことを考えております。

さらに、これまでの部会、全体会における主な意見ということで、資料2をご覧くださいただけたらと思うんですけども、この地域コミュニティの活性化に関することでもございます。

1つ、新たな担い手の確保が困難という項目でございますが、この間の部会、全体会において、主な意見といたしまして、高齢化に伴い新たな担い手の確保が難しい。実際を取組みが進んでいる地域と格差を感じている。ないしは若い人のボランティア活動への参加は増えてきているが、祭りなどの楽しいことには参加するがそれ以外のボランティア活動、楽しくないって言ったらおかしいですけど奉仕するような活動については、なかなか参加は集まりまらない。また、無作為抽出1,500名ということで実施した区民アンケートでは、中学生に区政への意見を聞く機会があれば区政に関心を持つことにつながるし、地域活動の担い手育成にもつながっていくと思う、といったような新たな担い手の確保についての意見が寄せられておりました。

これについては、引き続き、地域の魅力でありますとか、実際にやっている取組みですね、地域活動情報を区のホームページに掲載することで情報発信・情報共有を行わせていただくということも考えております。

また、出前講座など中学生も参加する事業の機会を利用して、区政に関する意見を聞くなど、区政への関心を高め新たな担い手の確保につなげていくというふうにも考えております。

地域コミュニティの活性化についての説明は以上でございます。

○岡本部長 ありがとうございます。

それでは、経営課題2の地域活動コミュニティの活性化について、何かご意見がありましたらよろしくお願いたします。ございませんか。指名してもいいですか。

どうぞ、はい。

○田中（潔）委員 ここに書いてあるんでね、去年やられた同じことになるんかもしれませんが、私も町会の役員しているんですけどなり手がおらない。やっぱりこれをやりますと、かなりいろいろ行事がございまして、自分の自由な時間は、私は365日暇なんですけど、やっぱりそれでも自由な時間というのが取られると。なり手がなかなかいない。負担が大きいですね。

それと、もう1つ思うのは、そうは言ってもだれかがやらないかと。やっぱりここに地域コミュニティの活性化ということが書いてあるんですけども、この基本は、私自身は向かい3軒、両隣りですか、これがベースだと思います。ここをしっかりとできなければ、何ぼこんな大きなことを言っても広がらないと。それにはやっぱり広げようと思ったら、隣3軒、両隣りをつないでいく人と言うんですか、役員さんなり班長さんなりそういう役割が要るわけですけど、これは2年任期なんですけどね、本来。だからその中ではやっぱり頑張っていていただくしかないなと思います。だから、やっぱり向かい3軒、両隣りをベースに、しっかりまず押さえると。そこをつなげるという取組みをベースに考えていくと。そういうことが大事だと思います。

いろいろ行事するのも大いに結構なんですけどね。つながらないと思います。

○岡本部長 大切やと思うんですけどなかなかね。多過ぎると負担になって、いろいろね。

○田中（潔）委員　　区長さんも大変だと思いますが、行事の度に顔を出していただきまして。偉いすみません、どうも。

○岡本部長　　やっぱりね、地域で僕らがやっていることは仕事以外にやってるから、そこら辺が難しい。バランスが難しいですよ。

○濱口地域活動支援課長　　なかなかやらされ感のない状態のもので、みんながともに仲よく、何のためにするかと言ったら、例えば地震でありますとか、ゲリラ豪雨なんかあったりしたときに、避難するとかというときに見える関係であれば、何かまず自分の命も助けながら人のこともちょっと考えられるというのがやっぱり必要になってくるのかな。ちょっと、手段と方法が逆転しているのかもわからないんですけども、仲よくすると言いますか、いわゆる地域コミュニティの醸成というのがそのあたりから出てくるのかなと思いますので、我々として考えていかないといけないのは、やらされ感のない部分でどういうふう引き出していけるのか、行くのかということについて、具体的なところはなかなか持ち合わせてない部分もあるので、こういう話についてもここの部会でご議論いただいて、何かアイデアとか示唆していただくようなことがもしございましたらありがたく思うんですけども。

○岡本部長　　ほか何かご意見。

○猿渡委員　　ちょっとしゃべってよろしいですか。

○岡本部長　　はい。

○猿渡委員　　すみません、伺っていてちょっとわからないので質問させていただきたいんですけども。

まず先ほど地域、これ意見をまとめた中で若い人のボランティア活動の参加は増えてきているが、祭りなどの楽しいことには参加するがそれ以外のボランティア活動、奉仕への参加は集まらないという主な意見があったと書いてあります。これ読ませていただいて、僕はカテゴライズ自体がおかしいのではないかと思うわけです。ボランティアというのは奉仕ですから、祭りの運営に携わろうが、地域のお掃除に参加しよ

うが同じではないのかなと。それをわざわざカテゴライズして、例えばぼろっと口を滑らされましたけれども、おもしろいほう、おもしろくないほうみたいなカテゴライズをすると、どんどん息苦しくなっていくんじゃないかなと思うんですよね。

例えば祭りの運営にかかわる魅力って何だろうとか、地域のお掃除にかかわる魅力って何だろうかって。やっぱり家の前がきれいになったら気持ちいいやんかみたいな、何かものすごいハードルを下げると言うか、カテゴライズをわざわざすればするほど何か参加しないことが悪いことになって、二の足を踏んだりとか、ちょっと1回飛んだから次はやめとこかなみたいな、消極性を引き出してしまうような部分はないのだろうかというのをまず1つ考えてしまうのと。

担い手の確保が困難なのは、担い手の責任なんだろうかというのが非常に疑問に思うと言うか、どういう投げかけをして担い手を確保するか、非常に大切な問題やと思うのですが、担い手の確保はどちらの責任でもないのだろうというふうに思うわけですね。決して区の担当の責任とも僕は思いませんし、だからと言って、例えばうちもそうですけれども、共働き家庭がこれだけ増えている中で、地域活動にどれだけの時間が割けるんだらうかというような調査であるとかデータというのはどれぐらいお持ちなのかなというふうに思うわけですね。

そういった状況の中で、「やらされ感のない」と言われても、僕ちょっと難しいかなっていうふうに思ってしまうんで、はい、すみません。

○岡本部長 今、濱口課長がおっしゃったやらされ感ってね、これ結構テーマなんですよね。私、青少年指導員を20年近くやってきて、会長までやらせていただいたんですが、やっぱりその中でね、各校下の青指、約180名いらっしゃる方全員の意見を同じ方向に持っていくのは非常に大変なことなんですよね。

特に区役所とコラボレーションしながらいろいろするといったら、その中に、やっぱりこれはよくないよとかね、やっぱりやりたい、いろいろな意見があって、それをいかにやらされ感なしに、自分たちで積極的にやっていってもらえるかという、やっ

ぱり大変なんですね、そこら辺はね。

だんだんだんだん要請が増えてくるんですよ。何かにつけて。1つの大きな集団としては、PTAさんなんかも一緒やと思うんですけど、大きな集団として一塊だと、非常に動きがスムーズで、スピーディーに動くんで、どうしても区役所の方にも頼りにしていただけるし、僕らも逆に頼りにするときもあるんですが、その中でどんどんやることが増えてくる。増えてきたら、個人的にはみんな喜んでやらせていただきますよという気持ちはあるんですけど、やっぱり家庭もあることやし、仕事もあることやし、そこら辺のバランスを考えてやっていかなあかんって思うんですよ。

若い西村委員も今日来ていただいています、これからNPOで頑張ってる司令塔の役割をするようなところに入っていただいているみたいで、すごいこういう若い方、青指も増えてきているんですけど、やっぱりね、そこら辺があまり最初からいろいろやり過ぎるとね、これからまだ人生仕事もしていかなあかん、結婚もしていかなあかん、お子さんも育てていかなあかんという中で、やっぱり僕らとしてはあまり偏ったことをすると、その人の人生にとってもよくないんじゃないかなって思うときがたまにあるんです。すみません、言い過ぎました。

○濱口地域活動支援課長 頻度と言いますか、バランスと言いますか。

○岡本部長 そうですね。やっぱり家庭もあるし、仕事をまずしていただいて、家庭を大事にしてください、それでさらにお気持ちがあるんやったらやってねというのが本当はベターというか、ベストやと思うんですけど、やっぱりどうしても地域の中でそれなりの中核をなしている団体だと、何か行事があったらちょっと手伝ってとかということは。やっぱり言われたら断りにくいから、それじゃあ行きますねって。だからそこでいろいろ。出られない人もいてるし、出れる人もいてるし。そしたら出られない人は、それなりの事情があって出られないんだけど、やっぱり出ている人から見たら何であの人出ないのっていう、そういうところがやっぱりね、リーダーとな

る人はいろいろ気を遣うところがたくさんあると思う。そんなことがありました。

○大原副部長 なかなかこれってすぐには解決しない話だと思うんですよね。

ただ、私思うのは、きっかけがあってそういった地域の人材になっていくということとは、皆さん持ってはると思うんですね。

例えば、先ほど猿渡委員のお話でありましたけれど、今回の楽園会議のイベントで1人お仲間になっていただいて、その方たちはひょっとしたらいろんな形で活躍していただく方になるかもわかりませんし、私なんかももともと何でPTA始めることになったかと言うと、幼稚園で運動会の準備の人手が足りないからだれか来られませんかといって、行ったら僕しかいなかったみたいな感じやったんですけど。それから会長とかするようになって、小学校でもやるようになったのがきっかけで。

ただ、やっぱりそういうのを手伝いたいなという思いは、気持ちは持ってるんですよね。

ですので、そういったこと、ちっちゃなことを地道にやっていくというのも1つの手なんかと思うんですね。そういうイベントで何か手を貸してくれませんかという声をかけさせていただいて、そういう人たちにもやっていただいて、でも決してそれに無理強いをするわけではなく、またよかったらぜひ来てくださいとかという形で、地道に地道にやっていくことによって、そういった人が少しずつ育っていくのかなというふうにちょっと自分は思うんですけどね。

○濱口地域活動支援課長 なかなか今言われるそういうP D C Aと言いますか、結果が求められる部分になってくるので、私なんかは個人的に、今、猿渡委員みたいにされている方について、例えばイベントに協力していただいている方ということで、名簿をつくれますよ。名簿をつくったその方について、次に同じようなイベントがあったらお手伝いをまたしてくださいねというふうなことをやれば、割と短い時間軸で行けたりするのかなというふうにも思うんですけども、時間かけてというところと、今、私が思ってる名簿をつくって、性急に進めたらやっぱり逃げていく部分というの

も当然あって、結論的に言えば、例えば猿渡委員がイベントを一生懸命取り組んでおられる。この猿渡委員を地域で活動していくように持っていくように、最終、地域に返すと言いますか、循環してというふうにしてできたら一番いいのかな。

○猿渡委員 本人の希望も聞きましょう。僕は今、地域に行って活動することを望んでおりません、申しわけないんですけど。なので、なかなか難しいでしょうね、そこはね。いや、よくわかりました。ありがとうございます。

○河村区長 なかなか結論が出ない。もう1年半ほど地域でいろんな方と接し、いろんな行事にも行きましたけれども、あるべき論を追求するとなかなか難しいところがあって、参加しない人が悪いんだとか、祭りだけしか来ない人が悪いんだとかという、何か全然結論が出ない。かといって、ほんならどうしたらええんやろうというのがある。

ただ、鶴見区は、僕が今住んでいるところよりはずっといろんな方が、いろんな世代の方がいろんな行事に参加されているというのがあって、標準以上だとは思いうんですよね。だからそういう意味でコミュニティも形成されているし、地域の活動も盛んですし、それを後、続けていくのに後継者をどう育てるかとか、いろんなことがあると思うんですけども、僕もだからこうしてほしいとかというのがなかなか言えないんでね、そんなんでも佐々木委員なんかどう思っているのかな。

○佐々木委員 私もね、先ほどからお話聞かせてもらってて、猿渡委員がいろんなそういうイベントをされてて、親子で出てこられる人が多くなったと。

そういうことでね、人を集めるっていうことは、やっぱり子どもを引っつけることが一番やと思うんです。そうすると自然と大人も寄ってくるんでね。だからそういうふうなイベントをきちっとしていただいて、しんどいでしょうけども。そしてそういうような中に参加される親御さんたちが興味を持って、ちょっと私らもお手伝いできるかなというようなイメージをね、そういうイベントの中でしていただけたらね、少しはいいのかな。

○猿渡委員 方向づけですよ。イメージと言うか。

○佐々木委員 そうそう。

○猿渡委員 お手伝いもできますよみたいな。

○佐々木委員 そうそう、何でもね。そしたら出てきやすいんじゃないかな。ちょっとそれがきっかけになるじゃないかなと思うんですけれどね。

それと、総体的にボランティア活動を私らもいろいろとやっておりますけども、特にこの領収書問題。濱口課長が言われましたように、食事サービスとかふれあい喫茶とか、そういうものの領収問題なんですけれどね。これも一応、私らも携わっておりますけれども、最初はあまりやかましくなかった。ただもう金額さえ合えばよかった。そのうちだんだんと細かくなってきた。だから私らは今、言われたように、明細を一々書くんじゃなくて、例えば、これ1つレシートで結構ですと。レシートだったら皆載ってるから。じゃあそういうことで皆に納得してもらってレシート出してもらおうようにした。やっぱりスーパーによってはレシートが十分でない。野菜なら野菜。キュウリ、レタスって書いてないですよ。野菜、果物としか出ていない。もらって来た人は、1つの仕事もして、それもいろんなことして、買い物してほっとして済ませて、お金合ったからじゃあっていうことで会計さんに持って行かれたら、今度、会計さんがいやこれはあきませんからこうしてください。もうこんな嫌やわってなってしまうんですよ、やっぱりね。そしたら会計自身も、もう来年からはちょっとかわってねというような、不服も出てきます。だから私もどうしたら一番皆がしやすいようにしてもらえるんやろか、そういう悩みもちょっとあるんですけれどね。だからできるだけいろんな見本をつくって、こうこうですよっていうふうにしてますけれど、きちっとしたレシートもらっているところと、そうでないところと、そこまで比較しなかったんですよ、最初はね。だからそういうふうなこともありまして、なかなかボランティア活動もしかけていても、頭打ちになってしまっただけということで、これ以上突っ込んだらマイナスになったらいかんというようなところもちょっとあるんですね。結

局それはちょっとカバーしようと思うんですけど。なかなか難しいと思います。ある程度よくわかっていて、わかった、わかった、これだとかこうしたらいいねんねと言える人と、ちょっとする仕事がすごいしんどい人もいてるんですよ。

でも、そんな人もやっぱりボランティアのそこに入ってますからね。だからそういうようなところがちょっとありますのでね、皆あっち向いてこっち向いて一斉に並んでというようなわけにはいかない。いろいろとやっぱりでこぼこがあると思うんです。そこをうまくしていこうと思ったらしんどいところありますね。そういうなんで、いいボランティアさんが集まっていたるようにまた頑張っていきます。

○岡本部長 ありがとうございます。よろしいですか、ご意見。

○西村委員 ボランティア活動に関して、私が今、21歳なんですけれども、若い世代で興味がある人がかなり増えてるというふうに自分自身の体感としてはあるんですけれども、そのボランティア活動に、特に地域に踏み出すというきっかけがまずないというのが声として多いと思います。

私も自分の地元は摂津市になるんですけれども、摂津市で活動は全くしてなくて、こちらで活動しているのは、子どもの教育を今、榎本で寺子屋という形でやっていたいてるんですけれども、それに最初はすごく軽い気持ちでボランティアに週に1日だけ来るっていうふうな気持ちで入ったんですが、いい意味でずるずると引き込まれて行って、今ここに座ってるんですけれども。何かずるずると引き込まれていく魅力と言うか、自分が興味を持ったところから引き込めるようにできればとてもいいなというふうに思っていて、さっきのイベントの芋掘りですとか田んぼの「どろんこ王国」ですとか、とてもすてきなイベントがあるので、こういうのもこの「どろんこ王国」とか田んぼのイベントっていうのは、最近いろんなところでされていると思うんですけれども、そういうイベントは大学生とかもかなり参加しているみたいなので、そういった場面で例えば芋掘りですとかは、子ども連れで参加されているお母さんとかは最近はそういう機会がないので、そういう機会が欲しいというふうに考えている

お母さんもいらっしゃると思うので、農業をされてる方と体験してみたいなって思っている人をつなぐとか、そういう地道なところからボランティアが集まれば一番いいんじゃないかなというふうに、お話を聞いていて思いました。

○岡本部部长　ありがとうございます。もうね、大概みんなずるずるですよ、大原副部長も。

○大原副部長　そうですね。

○岡本部部长　多分みんなずるずる。いいんです、それでね。いいんですけど、でも佐々木委員がおっしゃったみたいに、ずるずるやりながらこれやりたいなと思うんやけど、何か領収書がめんどくさいなとかね、おじさんたちと話すのが大変やとか、そういうのがやっぱりあるんですよ。

次の議題行きますか。よろしくお願いします。

○中嶋窓口サービス課長　お手元の資料17ページの経営課題6、区役所力の強化について説明させていただきます。

まず、現在までの取組みということで、鶴見区庁舎内の掲示板の改善につきまして、1階の総合案内前の改善前、あちらの写真のとおりなんですけれども、案内表示が小さくてどこに何かがあるかわからない。また、さまざまな広告にPRポスターなどがまぎれてしまっている。案内表示の存在が目立たないといったことがございました。その部分を改善させていただきました。こちらが現在でございます。

まず、大きな立て看板を入り口に入ってすぐのところに、区役所全体の窓口番号の取扱い業務も表示する掲示板を作成しました。

また、天井につきましては、窓口の方向を示す掲示をつり下げることによって、例えば1階の窓口が住民票の発行の窓口なのか、介護のほうの保健福祉の担当なのかということで、すぐにわかるような形に改善をいたしました。

次に、窓口サービス課の住民情報担当のカウンター前ですけれども、これが改善前の窓口でございます。こちらのほうにつきましても案内表示が小さくて、どこに何番

窓口があるのかわかりにくい。

また、どの場所でどんな業務を扱っているのかがわかりにくいといったことがございました。それを今回改善させていただきました。

これは現在の窓口の表示ですけれども、窓口番号を大きく表示し、どこに窓口が存在してるかが遠くからもわかるようにしました。

また、窓口番号とともに扱う業務も表示することによって、その窓口でどのような手続きができるのかわかるようにいたしました。

また、いすのところですが、いすの背に広報紙入れを設置することによりまして、待ち時間を快適に過ごすことのできる環境を整えることといたしました。

こちらのほうの玄関前に案内板を設置いたしましたその土台につきましては購入しておりますけれども、天井からつり下げた掲示版につきましては、全体的に100円均一ショップの材料を活用しながら、職員が手づくりで作成したものでございます。

また、今年度につきましては3階の保険年金担当窓口のほうにテレビを設置するよう現在検討をしております。これが現在の状況でございます。

続きまして、具体的取組ということで、快適な窓口サービスの提供ということでございます。特に私どもは、平成28年度からは混雑予想日をホームページに掲載することによって、窓口の混雑の緩和を図りたいと考えております。特に待たされた感といったことの軽減を図りたいと考えておりますので、待ち合いスペースについても改善を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○野村総務課長 総務課長の野村でございます。

引き続き、経営課題6、区役所力の強化について説明させていただきます。

総務課では区役所の庁舎の維持管理、職員の人材育成を担当いたしております。

庁舎につきましては、鶴見区ができて40年たっておりますので、いろんな設備が老朽化しているということと、大きい地震がありましたら安全性が確保できない

ということで、2年以上前から庁舎の耐震工事を進めてまいりましたが、この9月末ですべて工事が終了いたしましたところでございます。長年、ご利用の皆さんにご不便をおかけしたところでございますけれども、また先ほどちょっとお話がありましたが、案内表示なんかもつけられない状態になっておりましたけれども、先ほどスライドをご覧いただいたような形で、各フロアの案内表示を設置したところでございます。

これらの業務改善につきましては、副区長をリーダーにしまして、各課長代理がメンバーになりまして、業務改善プロジェクトチームというのを設けております。このチームで内容を検討しまして、こういうハード面、ソフト面の両面、お客様の接遇も含めまして、両面の改善に取り組んでいるところでございます。

また、若手職員中心に、事務改善のチームというのもございまして、こちらのほうで職場の雰囲気をよくする取組みですとか、お客様に喜んでいただけるような取組みを行っておりますけれども、全体を通じまして、区役所全体で業務改善の機運を盛り上げていきたいと考えております。

また、大阪市の区役所につきましては、3年前から、窓口サービスの格付調査というものが行われておりまして、いわゆるミシュランの星みたいなもので格付けされるという部分なんですけれども、星1つで平均水準並み、星2つあればもっと優れているというような評価になるわけなんですけれども、鶴見区につきましては、残念ながら、昨年度、一昨年度、2年続けて星がないという状態となっております。今年度、先ほど申し上げましたような業務改善、ソフト面、ハード面、両方の面につきまして、何とか評価していただけるよう努力しているところでございます。

こちらの資料の17ページの下に具体的取組という形で書かせていただいておりますけれども、総務課におきましては、区役所のサービス水準の底上げを図っていくということで、下から3つ目でございますように、接遇力の向上ということで接遇研修ですとか職場改善に向けた研修を通じまして人材育成を行っております。下から2番目でございますけれども、窓口アンケートを実施いたしまして、こういうご意見を

踏まえながら中身の検証を行い、業務改善のサイクルを続けていきたいという形で取組みを進めているところでございます。

ご説明は以上でございます。

○小川広報戦略担当課長　引き続きまして、資料1の最後のページ、同じく区役所力の強化というところで、積極的な情報発信の推進について、説明をさせていただきます。

私どものほうでは、積極的な情報発信の推進ということで、必要な情報が入手できていると感じる区民を増やすことをめざしまして、具体的取組といたしましては、広報紙とかホームページ、フェイスブック等の区の広報媒体を活用した情報発信をしているところです。

こちらのパワーポイントにも出してるんですけども、広報板の写真をご覧いただいております。区民から1,500名の無作為抽出ということで、区民アンケートを毎年実施しておりますが、区の広報紙に継ぎまして回覧板とか掲示板、広報板から情報を入手される方が多いという結果も踏まえまして、平成25年度から各地域活動協議会のほうでご活用いただいていた区の広報板なんですけれども、今年度7月からは区政情報とか市政情報の掲示も改めてさせていただくことにしております。平成26年5月から広報紙の全戸配布も行っておりますけれども、広報板の下のほうに、その旨と、届かない場合の連絡先ということで掲示をさせていただいております。

お手元に、「つるみっ子だより」を配付をさせていただいてるんですけども、今年の5月から市立の小学校の生徒さんに配布をさせていただいております。子どもさんを対象とした記事を主に掲載をしておりますして、これをお家にお持ち帰りいただいて保護者の方と一緒にご覧いただいて、そして詳しくは区の広報紙とかホームページへというふうに、保護者の方を誘導するというのを1つの目的として作成をさせていただいております。

また、きめ細やかなタイムリーな情報発信という点からは、最近パソコンとかスマ

ートフォンの普及率も上昇しておりますので、ホームページとかフェイスブックによる情報発信もより積極的に行う必要があると考えております。

ただ、先ほど申しました区民アンケートなんですけれども、8月に広報についてアンケートを取らせていただいたとき、フェイスブックの認知度というのが、見たことがないとか見ることができないという回答を87%、約9割の方からいただきました。

ただし、自由意見ということで記載していただくところを見ていますと、フェイスブックがあること自体知らなかったとか、一度見てみようと思うといったようなご意見もいただきましたので、その対策として広報紙の11月号では、フェイスブックに焦点を絞ったPR記事を掲載させていただいたり、今後作成するこのようなこのチラシとかポスターにフェイスブックの周知文とかQRコードを掲載させていただいて、積極的なPRを行ってまいりたいと考えております。

私からは、以上でございます。

○岡本部長 ありがとうございます。区役所力の強化について説明をいただきました。

何かご意見ございますでしょうか。

○河村区長 決してそれで十分だとは思ってなくて、まだまだ改善していくべき点がたくさんあると思っているんですけれども、区政会議の皆さん方からあえてこの辺をもうちょっとせなあかんでとか、これはいけないでとかというのがあれば、この際と言いますか、いろいろご意見、ご提案をちょうだいできるとありがたいなと。

○大原副部長 私もう10年以上、お昼間の区役所にお伺いしたことなくて、奥さんにちょっと聞いたんですね。区役所の窓口の対応はどうですかっていう話を確認したら、奥さんの的には絶賛やったんですね。非常に見やすくなっていて、お役所の方のご対応もすごくよくて、本当に1回行って見たらとなるくらいよかったです。非常に評価がよかったのに星がつかないというのはどこにあるのかなと。そこの解析があると思うんですね。例えばどういった問い合わせに関してよくなかったのか、ご

年齢はどうかといったところのちょっと解析は、多分されているとは思いますが、そういうところに何かヒントはないのかなと思うんです。

○佐々木委員　今のことは私も思っていました。どうしてそういうあれが決められるのかな。どこから、どなたたちの意見でそれが決められてるのかな。私も大概、窓口をよく利用させてもらってます。証明書の発行とかも。そしたらやっぱり何年か前よりは、もう本当にスムーズにさせていただいていますし、皆さんの動きも活発やし、今までだったら自分の担当以外、例え人がいようと、ずっと前の話ですけどね、別にそこへ寄ってきてすることもなかったけれど、今はだれかがもうそこへ行くというように、人を待たせるということのないように努力されててね、すごく努力されてるなと私もうつくづくと去年ぐらいから思っているんです。ところが言われるように、星はないというようなんで、一体その星だれがつけてんねやろなと思ってましたけど、どうなんですかね、それは。

○野村総務課長　この格付調査につきましては、専門の調査業者が入っておりまして、いわゆる覆面調査ということで、電話をかける、窓口に行くなど調査員が入って調べるんですけども、この回数があまり多くありませんので、やっぱり対応にばらつきがありますと悪いほうに評価がついてしまうというところに原因があるのかなと思っております。ですから、すべての職員が一定の水準の対応をしないと星がつかないと。

○佐々木委員　ばらつきがあって、運悪くちょっと低い人のところへ電話がかかったとか、そういうこともありますわね。

○小川広報戦略担当課長　名札がきちんとテーブルから見えてなかったというのも減点の対象になったりとかするんです。

○佐々木委員　そうですか。厳しいですね。

○猿渡委員　同情を申し上げつつ、例えば僕も証明書発行で窓口のほうに行かせていただきますと、すぐだれか飛んできてくださいます。やることわかってるので大丈夫

夫ですよみたいな感じはありながら、もうすごくさっとだれかが来て、何かお探しですかという、すばらしいなど。

でも、例えば予防接種。子どもを連れて真夏に来たときには、室温はどうなのかとか、会場が移ったのも連絡がない。そこにいた赤ちゃん連れのお母さんたちはもう怖いぐらいに激怒するわけですよ、沸騰すると言うか、うちの子のこと何や思ってんねんみたいな、うわってなれば、それはばらつきと言われても、現場見てしまったらね。

例えば土曜日の「どろんこ」にボランティアさんが来ました。これもものすごくすばらしいけれども、その方は休み時間に区役所に問い合わせをされて、現場に行ってくださいって言われて、わかりましたって現場に来られたと。現場がどこかわからないわけですよ。ポスター見てとかチラシを見てとか広報見て行こうと思いましたが言ったら、もうわかってる前提でそこにと言われたんで、その方は探して来られる。そこまで情熱のある方でよかったなというところなんですけれど、じゃあ窓口対応はって言われたら、確かにうんってなるんだらうなとかっていうところは、お話を伺ってて。

でも、何か根本的に星をめざしてサービスを改善するのは違うんだらうというふうに思って、星より何よりもまず目の前に来られている、窓口に来られている人に対して愛情があるかどうか恐らく決め手になるんじゃないかなとか思いながら話を伺いました。生意気な意見ですみませんでした。

○柴田委員 地域で活動をしている者にとってはね、よく区役所から応援に保健師さんとか来ていただける回数が随分増えたなど。

やっぱりそういう方々に来ていただくと、ボランティアで1時間か2時間やったらお手伝いできるという方にも、実はこういう部署のこういう方よっていう声かけもね、結構できてるんですよ。だから、へえーと言いながら話してますのでね、本当、近くなっただって言うのか、そういうふうに。

さっきボランティアの話も出ましたが、お役の名前は嫌だけでも午前中の2時間ぐ

らいやったらお手伝いできるとか、そういう方が結構いるんですね。手伝ってもらえるそういう方々にお願いしてきているので。区役所の方も結構、大概3人か4人来ていただいているので。だからそういうなんで随分、運営の格がちょっと上がるような感じで運営できているように思うんですよね。出てこられるのは大変だと思うんですけどね。

○岡本部長 フェイスブックはすみません、役所がやってるのは知らなかったんですけど、榎本さんのNPOのフェイスブックはよく見ます。

○小川広報戦略担当課長 地域活動協議会もフェイスブックをやられてるんですけど、区役所もやっておりまして、ホームページのバナーの左に区のフェイスブック、つるりっぷと一緒にバナーを貼ってたりとか、スマホなんかでも、グーグルなんかで鶴見区役所のフェイスブックということで検索していただくと出てまいります。

地域の情報も載せさせていただいていますし、中心は若い方々かなというのもありますので、特に塾代助成を市がやるとか言ったら、情報を載せさせていただいたりとか。本日は鶴見緑地でコスモスが見ごろという記事があったので、それをまたフェイスブックにあげさせていただいたりということで、いいねの数もだんだん上がってはおりますんですけども、まだ380ぐらいでして、多いところの区役所でしたら1,000ぐらいいいねがあるんですね。1,000ぐらいあるところに何でかと聞いたから、やっぱり地道にチラシとかに載せるとか、お声がけをして口コミで増やしていくということをやっていたというのを聞いていますので、1回いいねを押していただいたらタイムラインにそのまま情報が載っていきますので皆様方もぜひ。

○柴田委員 そういうのは、私たちはあまり縁が遠いですけどね、子育てサークルなんかに来てるお母さん方は毎回30組近く来ますのでね、そういう方々はよく見えますけどね。今度何か行事があるよと言ってもなかなか参加まではしてくれないんですけどね。そういう子育て関係のこともまた載せていただけたらいいかもわからないですね。

○小川広報戦略担当課長　そうですね。保育所の申込みが始まりますとかというのもフェイスブック掲載させていただいたりしますし、また予防接種が始まりますとか、そんな割と若い世代向けのも掲載させていただいております。

○柴田委員　結構そういうのは見るかもしれないですね。

○小川広報戦略担当課長　はい。というので、やっぱりリーチ率と言うんですか、そのときはぐんと上がりますので、それを私どもも参考にしながらいろんな情報は掲載していったるんですけど。

○柴田委員　ボランティアの人が反対に教えてもらってますわ。そういう雰囲気があるのですね。

○岡本部長　ラインのほうは。

○小川広報戦略担当課長　ラインまではちょっと手を伸ばしてないです。

○岡本部長　若い人って絶対ラインですよ。

○西村委員　どちらかと言うと、フェイスブックのほうが多い。

○岡本部長　そうなん。

○小川広報戦略担当課長　ツイッターとか、フェイスブック、ラインといろいろあるんですけど、ツイッターは文字数が限られている。ラインはちょっと、グループをつくってやるような感じなんでね。やっぱりきちんと情報載せて写真も添付できるというのはフェイスブックかなと思っておりますし、私ども区の広報紙、フェイスブック、ホームページ、広報板という広報媒体を、もっと広く浸透させていかなあかんかなとも思っていますので。

○岡本部長　ありがとうございます。

○小川広報戦略担当課長　部長、言うのを忘れてたんですけど、広報・広聴に関する事ということで、主な意見もちょうだいしております、資料2、一番最後のページ、小学校を通じたイベントの「つるみっ子だより」なんですけれども、今年度の区政会議で市立の小学校の子どもさんは見れるけど、私立の小学校は見られへん

でというようなご意見もちょうだいしまして、9月から区の広報板に掲示させていただいたり、地下鉄とか放出駅とか商業施設への掲示とか配架も始めさせていただいたところがございます。

○岡本部長 ほか何かご意見ございませんか。もうよろしゅうございますか。

西村委員、ありますか。忌憚のない。

○西村委員 私自身があまり今まで区役所とか市役所に行ったことがなくて、ちょっとこの話題に関して、わからなかったことが多かったんですけども、広報に関してとかは、やっぱりフェイスブックはいいねがしやすいというのと、ツイッターだとやっぱりリツイートをしないといけないというのが1つ難しいところになるので、フェイスブックのコードを載せていただくというのはすごくいいなというふうに思いました。

○大原副部長 小まめに更新してくれたらうれしいですね。

○小川広報戦略担当課長 もちろんさせていただきます。はい。

○猿渡委員 土曜日の「どろんこ王国」に参加されたお父さん、午後の部に来られた方です。着がえるところはありますかということで納屋に入ってこられて、僕らは楽屋と呼んでたんですが、納屋のほうでスタンバイしておりましたらお父さんが入ってこられたので、どうぞと声かけて、えらいばちっと気合いの入ったと言いますか、もう汚れる気満々の格好で来られたので、お父さん気合いが入ってますねって声をかけましたら、午前中にフェイスブックを見た。こんな格好ではいけないということで衣装を変えられて。だから僕が言いたいのは速報性のところでありがたかったなど。

○小川広報戦略担当課長 全身緑のお父さんがおられたんですよ。

○猿渡委員 全身タイトのね。

○小川広報戦略担当課長 はい。フェイスブック載させていただいていいですかってお聞きをして掲載させていただいたんです。

○猿渡委員 そのお父さんがこれではいけないと。こんなことで行ったら大変な目

に遭うぞと。上から下までね、頭の上から下まで泥んこになるわけで。それをやっばりフェイスブック見られて、衣装を変えてきました。僕はもうやる気ですって言うて。

○小川広報戦略担当課長　　どろんこのところもね、掲載させていただいてね。

○猿渡委員　　はい。着がえて「どろんこ」のほうに入っていかれて、見ていたら、本当に子どもよりも汚れてるんと違うっていうぐらいなってはったので、それは非常に有効な手段だろうというエピソードの1つ。すみません、挟ませていただきます。

○岡本部長　　ありがとうございます。皆さん、よろしいですか、もう大体出尽くしました。

そうしましたら、最後、区長からごあいさつですか。

○河村区長　　今日は長時間、初めての部会ということでございますけれども、ありがとうございます。貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございます。

まちづくりの部分、魅力あふれるまちづくりの部分について、いろんな行事をやっているわけなんですけれども、パターンも幾つかあって、ボランティアの方々のお力を借りてやる部分もあれば、区がある程度主導的にやる部分もあれば、実行委員会のような形でやる部分、いろんなケースがあるわけなんですけれども、それぞれの目的が今にフィットしているかどうか、当初スタートしたときはそれでよかったけれども、今どうなのかとか、そういったことを常に見直す中で平成28年度、まだ平成27年度終わってない行事もたくさんありますけれども、平成28年度につなげていけたらなと思っております。

あと、コミュニティの育成については、これはなかなか答えの出にくい難しい問題だったわけなんですけれども、今日幾つかご意見いただきましたけれど、やっぱりやる気をそがれるようなことだけはないように、さっき佐々木委員がおっしゃったような補助金にまつわる領収書の問題とか、僕も全然これはいけてないなと思っていることばかりなんで。

それと、区役所力については、もう少し辛口のご意見をばんばんこういただけるの

かなと思っておりましたが、現状ある程度認めていただくようなこともありました。

ただ、先ほどのフェイスブックに代表されるように、例えば区役所がフェイスブックをつくったとき、これみんな見はるでと。見てない人が悪いねんというね、ある意味、上から目線的なところがあったのも事実で、それが結果として見ておられる方が少ないということにもつながっているかと思うので、それはやっぱり新しい目線と言いますか、見る人の立場に立ってどうなんやろなというのを反省する1つの機会にもなりましたので、広報をするにしても、ほんまにそういう情報を必要としてる人かどうかというのを、常に見る人の立場に立ってやっていかなあかんというふうに、遅まきながら気づいた次第ですので、そういった視点でまた進めていきたいと思います。

今日いただいたいろんなご意見は、また次年度につなげていきたいと思います。

今日は本当に貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。よろしくお願ひいたします。

○岡本部長 ありがとうございます。

では最後に区役所のほうから何か。

○奥本魅力創造課長 次回の区政会議の予定でございますが、12月ごろに全体会を開催し、平成28年度の運営方針案について、他の部会所管の課題を含め、ご意見を賜りたいと考えております。

日程につきましては、改めて調整をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

事務連絡は以上でございます。

○岡本部長 どうもありがとうございました。

それでは皆さん、長時間、大変ありがとうございました。

本日の会議をこれで閉会いたします。どうもありがとうございました。

閉会 20時56分